



# 祐介の目

No.172

大田祐介 (福山市議会議員)

屈しないという国民の意思を示すことができた。

さて、山田議員の著書「松下幸之助が教えてくれた日本復活のために大切なこと」を読むと、かつて松下は日本という国の経営

## 高市早苗総理

自民党圧勝の余韻も冷めやらぬ建国記念の日、山田宏参議院議員の講演を拝聴した。山田議員は松下政経塾2期生であり高市総理の先輩になる。総理や松下幸之助にまつわるエピソードを交えながらの講演は、我が国の進む道を示唆する内容だった。まず今回の解散総選挙は自公から自維の連立政権に代わったことにより、連立合意書の内容は政権交代と言っても過言でない変化が生じていた。選挙で信を問うのが当然と述べられた。

台湾有事に関する国会答弁についても、撤回するのは総理を辞める時という覚悟でおられたそうだ。力なき正義は無力であり、習近平、プーチン、金正恩らと対峙するには相応の防衛力が必要という認識。また、総理は台湾を「真の友人」とし、台湾を第二の香港にしてはならないという強い思いを持っている。私達も総選挙により中国の脅しに

方針を数多く提言していた。国の目指す姿として「和の国・日本」、日本の伝統精神である①周知を集める②主座を保つ③和を貴ぶの三点を大切にすること。大東亜戦争で戦死した多くの若者に対しても「犬死ではない」とはなむけの言葉を贈り感謝している。これら松下の言葉を遺訓として高市総理は国家経営に取り組み、必ず靖国神社にも参拝するだろう。松下は憲法前文(私案)も発表しており、自民党が自憲法制定を党是として結党されたことを思えば、ようやくその入口にたどり着いた感がある。

最後に食料品のみゼロ税率という消費税減税にも取り組んでもらいたいが、慎重な制度設計をお願いしたい。例として、医療は消費税導入当初から非課税であり、仕入れ税額控除ができないために税率の上昇とともに多くの医療機関が赤字に転落した。飲食業者や農業者が同じ轍を踏まないような配慮が必要だろう。